

日本学術会議 科学者委員会 研究評価分科会

第 26 期・第四回

議事要旨

日 時：令和 7 年 1 月 21 日（火）14:30～16:30

会 場：オンライン（Zoom）

出席者：

尾崎委員長、柚崎幹事、林隆之幹事、坂田委員、城山委員、三成委員、岡村委員、森委員、大橋委員、標葉委員、林和弘委員、新澤裕子委員、佐々木委員

議 題：

- ・ 意思の表出について

議事要旨：

- 尾崎委員長より、これまでの検討ワーキングを含めた分科会の議事要旨をもとに意思の表出申出書（案）作成に至った経緯を説明し、申出書提出までのスケジュールを確認
- 林隆之委員より、「【分科会資料】申出書（案）」に沿って説明。意思の表出の種類として、提言か報告か議論を求めた。
- 各委員より意見が出され、学術体制分科会が発出した「第 7 期科学技術・イノベーション基本計画に向けての提言」の中で、研究評価に関する各論を「提言」として位置付ける方向で合意が得られた。特に以下の点について記述を検討する必要があるとの意見が出された。1. 研究評価改革の国際的な潮流: 改革の議論が、方向性の模索から具体的なアクションへと大きく移ってきている現状、2.ピアレビューによる評価への懸念への対応:従来のピアレビューによる評価に対して、質的高度化が求められている点、3. 定量的指標利用の弊害:日本においても定量的指標の過度な利用による弊害に対する注意喚起の必要性。